

## アワーミュージアム

第37号 2008年7月25日発行



## 海藻おしばをつくってみませんか？

大井 文香 (友の会会員)

青い海、白い砂浜、多様な生物、徳島の海はとても豊かです。皆さんは海に出かけることがありますか。山のふもとで育った私は、小さい頃から、磯で波が砕けるのを眺めるのが夢でした。学生の頃、海に隣接した宿に泊まり、何日も海を眺めたり歩いたり潜ったりして海藻に出会いました。海藻おしばと出会ったのもこのときです。

四国徳島の海にはたくさんの海藻が生育しています。引き潮を見はからって海辺に出かけると、あっという間に10種類以上の海藻が拾えることがあります。海辺でビニール袋を持って下ばかり見て何か拾っていると、「何をしているの?」、「ぬるぬるした海藻?」、「食べられないのに、いったい何のために拾うの?」と尋ねられたこともあります。でも、ユカリヤツノマタ、ホソバノトサカモドキ、フシツナギ、ウミウチワ、ヒジリメン、カゴメノリなど、赤や茶色、緑の海藻や珍しい形をした海藻があっという間に拾えるのです。袋いっぱい拾って家に帰ると、風呂場にバットを広げ、スノコを出してケント紙に海藻をひろげます。家の中は海藻の香りでいっぱいになります。乾燥するときも扇風機の振動や音が響き渡って……。狭い家で作業をするのは大変かなと思うこともあります。

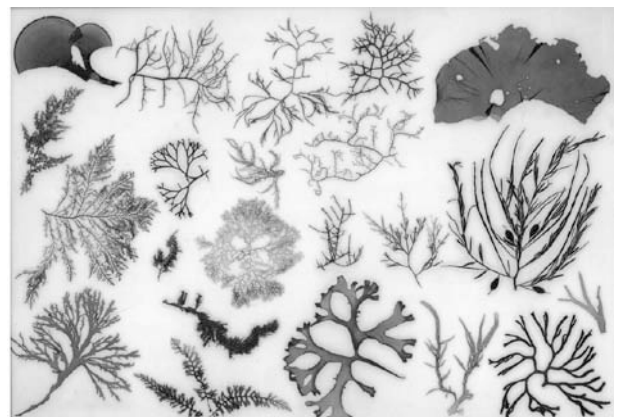
ところで、博物館ではVキングという催し物が開催されています。2005年と2006年には、学芸員、ボランティアスタッフの皆様のご協力のもと、必要な道具をそろえていただき、葉書サイズの海藻おしばをつくるコーナーを開かせていただきました。

子どもさんたちを中心に大勢の方が参加してください、それぞれが思いのままに作品を作ってくださいました。準備などを手伝ってくださったスタッフの皆様、参加して下さった皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。何より皆様とご一緒に作品をつくるのが楽しかったです。

博物館には、大きな乾燥機をはじめ、吸湿紙、ダンボール紙、テロンブロードなどこまごまとしたものまで道具が揃っています。広い実習室でゆったりと作品を作ることができます。水切りを済ませたケント紙を、大きな乾燥機で2、3日乾かすと海藻おしばができあがります。さらに、上から和紙を貼り付け、昨年度の友の会行事で作ったもののように、絵手紙風に仕上げることもできます。ラミネート（パウチ）をかけて壁飾りにもできます。出来上がった海藻おしばは、それまでの姿よりもいっそう輝いているような気がします。一人でも多くの方に体験していただきたいと思います。博物館でなら、皆さんも思う存分に海藻おしばが作れますよ。

## ■海藻は植物の仲間です

ところで、海藻といわれると、どんなものが浮か



完成した海藻おしば

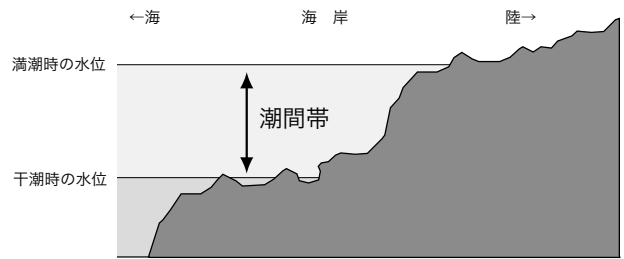
びますか？ ワカメ、テングサ、ヒジキ、<sup>あおのり</sup>青海苔。健康食品のリストのようですね。海藻は植物の仲間です。光のごはんを食べて（光合成をして）栄養を摂っています。食べることができない海藻もたくさんあります。海の中にもたくさんの植物が生活しています。食卓にのぼるもの以外にもたくさんの種類が知られています。博物館の普及行事の一つに、春、鳴門竜宮の磯に野外観察に出かける<sup>もよお</sup>催しがあります。竜宮の磯でタコを追いかけたり、アメフラシやその卵のウミゾウメンを見つけたり、魚をつかまえたり。生物を探するとき、岩の上を歩いていると、ヌルヌルして転びそう、つるつる<sup>すべ</sup>滑って転びそうになることがあります。その岩に貼り付いてヌルヌルしている生物も海藻の一種です。岩からひげが生えているように見えるものもあります。

### ■海藻はどこに生育しているの？

海藻は海で生活しています。引き潮のとき磯を歩くと見えるもの、海に潜らないと見えないものなどいろいろあります。淡水で生活しているものも海藻の仲間ですが、ここでは海水中の大きな海藻についてお話ししましょう。

海は一日に2回くらい干満を繰り返しています。満潮のとき、水面は上昇して、干潮のときは水面が下がります。満潮と引き潮と水位の間は<sup>ちようかんたい</sup>潮間帯とよばれています。潮間帯の磯にはヒトエグサ（青海苔として食用にされます）、ヒジキなどが生息しています。潮間帯の下は、ザン深帯とよばれていますが、ここにはユカリ、ホソバノトサカモドキのような紅色をした海藻も生息しています。もっとも深いものは、水深400mでも生息しています。海藻は“光のごはん”を食べるために必死にピッタリと岩などにへばりついて生活しています。

大潮の引き潮のときに磯に出かけると、いつもよりたくさんの海藻を見ることができます。また、浜辺を歩いていると、打ち上げられた海藻も見られます。深い海の底で生育している海藻が、はがれて<sup>ただよ</sup>漂ってきたものです。深い海に潜らなくても、引き潮の時に波により、赤や茶色の海藻がはがれて



潮の満ち引きでできる潮間帯には  
さまざまな生き物がくらしす

打ち上げられたものを拾うことができるのです。

### ■海藻って何種類くらいあるの？

日本の近海には約1400種の海藻が分布していると言われています。日本列島の南側を流れる暖流の黒潮（日本海流）と北部を流れる寒流の親潮（千島海流）の影響で南は亜熱帯性から、北は<sup>こんぶ</sup>昆布のような亜寒帯性の海藻がみられます。本州付近は、カジメ、ヒジキ、マクサのような温帯性海藻と潮の流れによりワカメのような寒帯性の海藻、亜熱帯性の海藻が入り混じって生息しています。

徳島は紀伊半島先端、四国、九州に分布する亜熱帯性の海藻と、本州太平洋沿岸に生息する温帯性の海藻が生息しています。鳴門の<sup>うずしお</sup>渦潮に代表される激しい潮流も海藻の生長に大きく関わっているのではないのでしょうか。

### ■どうして赤や緑や茶色の海藻があるの？

浅いところに生える海藻の多くは他の植物のようにクロロフィル（葉緑素）という緑色の色素を持ち、光合成をして栄養をとっています。ところが、海の深い底には太陽の光はなかなか届かないので、効率よく光を吸収できる赤い色素を持っている海藻が生えています。そのため全体が赤色をしているのです。引き潮のとき、竜宮の磯を歩いてみても、赤い色をした海藻はなかなか見つかりません。赤い海藻は潮間帯よりも深い海で生活しているからです。

青海苔は緑色の色素を持った<sup>りよくそう</sup>緑藻、赤い色素を持ったテングサは<sup>こうそう</sup>紅藻、ワカメは<sup>かつそう</sup>褐藻というように分類されています。ところで、皆さんはお味噌汁を作るとき、生の茶色がかったワカメを熱いお汁の中に入れると緑色に変わるのを見たことがありま

せんか？赤い色素は熱に不安定ですぐに分解しやすいものなのです。

### ■海藻を拾ったら

拾ってきて水を入れたバットの中に広げると、一つとして同じ形のものがありません。緑色をしたヒトエグサ、赤い色をしたユカリ、テングサ、茶色い色をしたウミウチワ。これらを紙の上に乗せて広げて乾かすと“おしば”になります。

海藻を拾ったら、水を切ってビニール袋に入れて持ち帰り冷凍庫に入れておくと長い間保存できます。時間があるときに自然解凍して海藻おしばにしてみてください。「海藻おしばをつくろう」の行事のときにお持ちくださり、ご自分の作品を作ってみませんか。

### ■海藻おしばの作り方

最初は、自分ひとりで作るよりも博物館で一緒に作ったほうが楽しいかと思いますが、簡単に紹介します。もっと詳しく知りたい方は、博物館までご連絡ください。

用意するものは、平たいバット、小さな水切り用スノコ、テロンブロード（綿60%、ポリエステル40%のような混紡の布）、新聞紙、ペーパータオル、ダンボール紙、爪楊枝などです。床が濡れてもよいように、ビニールシートも用意しましょう。

- ① 冷凍してあった海藻は、冷凍庫から出して解凍し、真水につけて砂を落とします。
- ② バットに水を張り、海藻をひろげます。たくさんあるときは、適当にちぎってください。
- ③ 海藻の大きさに合ったケント紙をバットにひろげた海藻の下に滑り込ませます。海藻をひろげてケント紙に載せた後、ゆっくり引き上げます。細かいものは爪楊枝を使うと、うまくひろがります。
- ④ 斜めに立てかけた水切り板の上にケント紙を載せて水を切ります。
- ⑤ 水がポタポタ垂れなくなったケント紙の海藻を載せた面にテロンブロードを載せ（海藻が新聞紙にくっつかないようにするためです）、その上にペーパータオルを載せ、さらに両面を新聞紙で

はさみます。新聞紙を両面からダンボール紙に挟み、数日間乾かします。何枚もつくった場合は順々に重ねていきます。乾いたペーパータオルやダンボール紙と交換したりすると、速く乾燥できます。

⑥ 乾燥後、ラミネート処理をすると、さらに輝いた仕上がりになります。

博物館入口に、友の会の皆様が作られた作品が飾ってあります。とてもきれいな海藻おしばの葉書に仕上がっています。いつか皆様もご一緒につくってみませんか？

## 友の会行事報告

### 化石をさがそう

◎日 時 5月25日（日） 13:30～15:30

◎場 所 上勝町福原（勝浦町役場近く）の勝浦川河原（現地集合、現地解散）

◎行事担当者 行成 正昭（友の会役員）  
中尾 賢一（博物館学芸員）

◎参加者 27名

◎概 要

①上勝町役場近くの勝浦川の河原で、砂岩と泥岩からなる中生代白亜紀前期（アプチアン、約1.2億年前）の地層（上部羽ノ浦層）と、その中に含まれる貝化石を観察しました。目につく化石はおもに二枚貝で、その多くがシジミのなかま（ハヤミナまたはテトリア）です。汽水域（淡水と海水がまじる河口や干潟のような場所）で



地層とその中の貝化石の観察（勝浦川河原）

きた白亜紀の地層なので、海の動物であるアンモナイトはまず期待できません。またこれまで恐竜が見つかったことはありませんが、今後見つかる可能性はゼロではありません。

②やや下流にある広い河原には、化石を含む砂岩や泥岩のほかに、緑色岩やチャート、石灰岩など多くの種類の岩石が転がっています。今から40年以上昔、この周辺は“梅林石”という水石の産地として有名だったとのことで、同じ質の岩石（溶岩起源の赤っぽい緑色岩）もみられました。この中から化石が入っている泥質砂岩や泥岩をみつけて、ハンマーで割ってシジミ類やカキなどの二枚貝や巻貝（上部羽ノ浦層から見つかる巻貝化石の多くは名前すらつけられていません）などの化石を探してもらいました。岩石の種類を見分けるのは慣れないとたいへんで、化石を含まない砂岩や泥岩も多く、そのうえ石もけっこう硬いので、化石採集はかなり難しかったと思います。それでもそれぞれ熱心にとりこんでいただきました。

残念ながら恐竜の可能性のある化石はみつきりませんが、何人かの方は貝化石を見つけて持って帰ることができました。（中尾）

## 参加者の声

○坂東 魁（孫）、坂東 直道（祖父）（友の会会員）

ぼくは、将来、新幹線の運転手になるか、恐竜の化石を発掘する仕事をしたいです。丹波篠山で恐竜化石を採集するテレビを見て、「行きたい」と言いましたが連れて行ってくれません。博物館友の会の「化石をさがそう」に連れて行ってと頼みましたが、おじいちゃんは高松へ古墳見学に行く予定でしたが、上勝へ行ってくれました。



石を割って化石さがし（勝浦川河原）

上勝町の役場で、先生から化石の採れる石は黒っぽい石（泥岩）ものだと教えてもらい、採集した化石を見せてもらいました。ぼくは、恐竜の化石かアンモナイトを見つけたいと思っていました。先生の案内で勝浦川に行くと、河原に二枚貝の化石がたくさん入っている大石がありました。ぼくは、黒い石を見つけては、おじいちゃんを呼んで、石を割ってもらいました。大きな石を上り下りしたり、石の上を飛び飛びしたりして黒い石を探すのが楽しかったです。二枚貝の入った化石が採れて良かったです。来年も来たいです。（孫）

これまでに、日開谷川へ何度か行き、コダイヤモンド、二枚貝、サンゴの化石を採集しました。今回、上勝で正式に化石採集体験をしたことで、孫の化石採集意欲の炎に油を注いだようで、大変困惑しております。（祖父）

○久保 又一（友の会会員）

雨天中止か実行か迷いながら上勝町役場へ集合。すぐ近くの落合集落の前の河原で、砂岩や泥岩からなる地層やその中に含まれる二枚貝化石を観察し、河原に転がっている岩石を探すが、化石はなかなか見つからない。参加者全員が岩石を割り探す。時間をかけて探すも、一部の人が二枚貝の化石を見つけたようで、収穫はあった。

童心に返って、無心に石を割り、楽しい時間を過ごした。



親子で化石さがし（勝浦川河原）

## 友の会行事報告

おおさか さかいひ がえ けんしゅうたび  
大阪・堺日帰り研修の旅

◎日 時 6月1日(日) 7:30～19:00

◎場 所 大阪府堺市

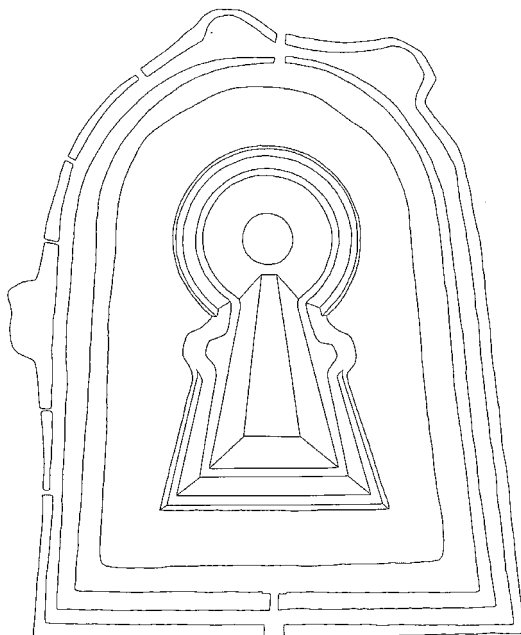
◎行事担当者 多田精介(友の会役員),  
高島芳弘(博物館学芸員),  
魚島純一(博物館学芸員)

◎参加者 79名

◎概 要

バス2台で文化の森を出発、若干早めに目的地『堺』に到着しました。主な見学場所は①南宗寺、②堺市博物館、③堺市役所21階展望ロビーからの百舌鳥古墳群です。百舌鳥古墳群には宮内庁によって天皇陵や陵墓参考地に比定されている古墳が多く、大仙古墳=仁徳陵(全長486m)、上石津ミサンザイ古墳=履中陵(365m)、田出井山古墳=反正陵(148m)と考えられています。規模から考えて、大王の古墳であることは間違いないと思いますが、誰の古墳かを示すはっきりとした考古学的な根拠はありません。

①南宗寺は三好長慶によって、父、三好元長の菩提を弔うため1557年に建てられた寺です。三好一族のほか、千利休をはじめとする千家の人々、武野紹鷗、徳川家康の墓などといわれているものがありました。やや長い見学ルートの途中、本堂の縁に座って、休息を兼ねて石庭に眺め入っている人が多くいました。また、竹筒のイヤホンで水琴窟の音を聞くと、一服の涼風が吹き抜けたよ



大仙古墳(仁徳陵、全長486m)

うに感じられました。

②堺市博物館は大仙古墳の南に整備された公園の中であり、隣には堺らしく茶室が設けられています。学芸員の方に解説していただきましたが、大人数のため二班に分かれて聞きました。大仙古墳をはじめとする百舌鳥古墳群、中世界の『黄金の日々』を彷彿とさせる貿易陶磁や鉄砲など見どころがいっぱいで、解説に聞き入っていました。博物館を出て大仙古墳の揺拝所前で記念写真を撮りました。

③最後は堺市役所21階展望ロビーです。百舌鳥古墳群はもちろんのこと、二上山や生駒の山並みまで見渡すことができました。それぞれの古墳の形は、堺東駅の東側にある全長148mの田出井山古墳(反正陵)をのぞいては、あまりはっきりとは分かりませんでした。しかし、古墳の位置関係は手に取るように分かり、みなさん古墳を上から眺めることができ、大満足の様子でした。また、反対の西側の堺環濠集落遺跡の形もよくわかりました。

じゅうぶん余裕のある計画としたつもりであったのに、あわただしいものとなってしまいました。少し物足りないなあと思われた方もいるかと思いますが、これを入り口として、ご自分でじっくりと見学されたらよいのではないかと思います。(高島)

## 参加者の声

○中條 文・幸子(友の会会員)

今回の大阪・堺を実地に研修する旅は、古代墳墓と中世武将や豪商の息吹を想像し「わくわく」する気持ちで参加しました。梅雨の晴れ間ですが、車窓から見る六甲山、神戸港。〔あっと〕いう間に通り過ぎた旧堺灯台。碁盤の目のように区割りされた堺区は、新旧の建物が混在し寺院も多く、歴史の重みを感じました。研修内容の濃い中、偏見を省みず私見を述べてみたいと思います。



高島学芸員による解説(南宗寺)

南宗寺境内に眠る三好長慶と千利休の一族の墓石を見て、阿波と堺の悠久のつながりを肌で感じました。阿波の三好長慶等の墓標には、細部の明記が無いので拝観者にはわかり難いと思います。簡素な古い建物の中に侘び寂びの世界が有り、雰囲気を感じるにはまず見る事、「百聞は一見に如かず」と痛感しました。特に方丈（本堂）の縁に腰掛けて石庭を眺めると、遊び心を感じるとともに、人生行路を暗示されているようにも思います。

堺市博物館では、百舌鳥古墳群の多数の古墳を、写真や模型で説明されましたので、それなりに理解できました。特に規模の大きい仁徳陵古墳と石棺（模型）の堅固さは、それを支えた集団があり、想像を絶する奉仕作業があったものと思います。大仙公園や日本庭園を横目で見ましたが、散策に適した風景があり、機会があれば訪れたいと思います。

次に仁徳陵古墳の正面方向に歩くと、清められた砂利の向こうに鳥居があり、奥に小高い森が新緑に映える光景は、神秘さと荘厳さを合わせ持つ空間でした。あまりにも大きいので、前方後円墳が小高い森に見え、空撮写真の全体像と結びつきませんでした。堺市役所の21階の展望台から眺めると、小高い森がいくつか見え、その中の最も大きい森が仁徳陵古墳ですが、木々に隠れて細部は不明のため、空撮写真や模型で比較し巨大遺跡を確認しました。

今回の研修地は、堺区の南宗寺、博物館、市役所展望台でしたが、中世に海外交易の要衝として経済的文化的に栄え、歴史的に名高い環濠都市を車窓からでも見たいと思いました。また、環濠の名残をとどめる内川、土井川を含む紀州街道沿いや、堺区

が推薦する散策コースを巡り、戦国武将と豪商達のロマンを偲びたいと思います。

今回の研修では、史実を実地に確かめることの大切さを学びました。特に歴史や文化を見たい・聞きたい・確かめたい。その狙いは、先人の生き方や経験を学び、知識を身に付け、教養を高め、日常生活に生かす事だろうと思います。

#### ○西 良太（中1）（友の会会員）

大仙古墳は、初めてあんな近くで見たので、すごく大きいなあと思いました。博物館にも行けて、すごく勉強になりました。良かったです。

一番印象に残ったのは、市役所21階展望台からの景色です。大仙古墳なども上から見ると、前方後円墳の形がよく分かったので、とても良かったです。

#### ○桑内 隆（友の会会員）

「大阪・堺研修の旅」では、何よりも待望の仁徳陵を見ることができ、大満足です。特に市役所の展望ロビーからは巨大な全体が実感されました。都市の真中に多くの古墳が開発から守られ、副産物としての自然が公園的に活用されており、貴重な財産であると思いました。

堺市博物館では、中世における博多と並ぶ国際貿易都市として発展し、町民、商人の街としての歴史が展示されていました。戦国時代、権力者との駆け引きを経ての興亡を見たとき、人間の働きの偉大さと同時にはかなさも感じました。楽しく勉強になった一日でした。お世話になりありがとうございました。



展望ロビーから大仙古墳をのぞむ



大仙古墳前で記念写真

○平<sup>たいら</sup> やよい（友の会会員）

大阪・堺日帰りの旅！大変お世話になりました。初めて参加させて頂き、少し緊張もありましたが・・・仁徳陵の大きさには改めて驚きと感動でした。現在も使われている蛸壺<sup>たこつぼ</sup>が5世紀にも考えられていたという事等々・・・これを機会に徳島の歴史についてももう少し関心を持って知ってゆきたいと思ったことです。

「万緑や 五世紀の墳 脈々と」

「見下ろせば 仁徳陵の 真緑に」

楽しい有意義な一日をありがとうございました。

○三輪<sup>みわ ひろあき</sup> 弘昭（友の会会員）

一度は見たいと思っていた大仙古墳を見ることが出来て本当に良かったです。教科書などでしか見たことがなく、巨大さに驚きました。古代の人々が手作業で造った古墳は大変なことだったのだらうと思われまます。

南宗寺では、当時の堺の街の繁栄ぶりが伺えました。

古代のロマンを感じながら有意義な一日をありがとうございました。

※「参加者の声」に掲載させていただいた方以外にも、多数の方々から感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。

## 平成 20 年度総会の報告

4月19日（土）午後1時より、博物館3階の講座室において平成20年度友の会総会が開催され、19年度の事業報告と決算報告、並びに20年度の事業計画と予算案についての審議が行われました。

## ●平成20年度友の会行事（予定）

## 1. 化石をさがそう

実施日：5月25日（日）

場 所：勝浦郡上勝町

## 2. 大阪・堺日帰り研修の旅

実施日：6月1日（日）

場 所：大阪府堺市

## 3. 虫と植物の観察

実施日：7月6日（日）

場 所：園瀬川河川敷

## 4. 夜の昆虫観察会

実施日：7月12日（土）

場 所：文化の森

## 5. 海藻おしばでポストカードをつくろう

実施日：夏休み中

場 所：徳島県立博物館 実習室

## 6. 一泊研修の旅

実施日：10月4日（土）～5日（日）

場 所：兵庫県出石方面

## 7. 神山町を歩こう

実施日：10月13日（月）

場 所：名西郡神山町

## 8. 八万町の昔を探ろう

実施日：11月16日（日）

場 所：徳島市八万町

9. 七草粥<sup>がゆ</sup>・おみいさんをつくろう

実施日：2月初旬頃

場 所：徳島県立博物館 実習室

## 10. 恐竜おりがみ

実施日：1月～3月

場 所：徳島県立博物館 実習室

## ●平成20年度友の会事業計画

## 1. 広報活動

博物館の広報印刷物を提供する。

## 2. 図録の印刷および販売

(1) 企画展図録「郷土の発見」・「香りの世界」を印刷し、販売する。

(2) 「徳島の銅鐸<sup>どうたたく</sup>」を増刷し、販売する。

(3) ミニ解説書3種類を印刷し販売する。

## 3. 友の会会報の原稿募集および発行

会報「アワーミュージアム」No.37～39を発行し、配布する。

## 4. 会員の募集

新しい会員募集案内を作成し、新会員を獲得する。配布先についても新規開拓をしていく。

## 5. 友の会グッズの販売

A4判クリアフォルダ2種（人文・自然）を販売する。

●平成20年度友の会役員・事務局

平成20年度 友の会役員

役職名	氏名	備考
会長	大杉 洋子	
副会長	関 眞由子	
	行成 正昭	
	大原 賢二	徳島県立博物館長
幹事	和田 賢次	
	多田 精介	
	澤 祥二郎	
	南部 洋子	
	鳥居 喬	新任
	松家 京子	新任
監査	石尾 和仁	
	川下 浩子	

平成20年度 友の会事務局

役職名	氏名	備考
事務局長	林 正明	副館長
事務局員	豊崎 勲	普及課主査兼係長
	向原 敬夫	普及課事務主任新任
	魚島 純一	主任学芸員
	中尾 賢一	主任学芸員
	茨木 靖	主任学芸員

●名誉会員について

4月の総会において、友の会の「名誉会員」の提案が事務局から出されました。

これは、友の会のために貢献された方を「名誉会員」と位置づけ、今後とも会と何らかのつながりを持ち続けていただきたいというものです。「名誉会員」というのは特別に何か特典があるということではありませんが、終身の友の会の会員となるというものです。

この案が提案されましたのは、会の発足以来、長く会長としていろいろな場面で会の運営を助けて下さった寺戸恒夫氏と、今年会長を変わりましたが、同じく会のスタート時点からいろいろな面でお世話になった石原侑氏のお二人に、「名誉会員」の制度を作り、友の会とのお付き合いを続けていただきたい、という考えによるものです。

総会におきまして、皆様のご了解をいただきましたので、お二方の名誉会員が誕生しましたことをご報告させていただきます。

(副会長〈博物館長〉大原賢二)

新スタッフ紹介

おおすぎ ようこ (友の会会長)

今年度、友の会会長に選任されました大杉です。

女性の視点から友の会をお手伝いできたらと思い、会長を引き受けました。

郷土の歴史や暮らし、お祭りなどに興味を持っています。

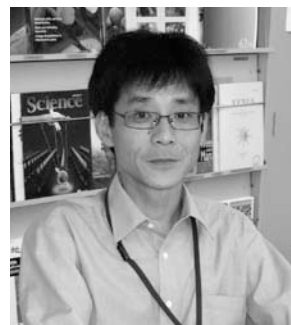
自分の経験をいかしながら、子どもたちに大事なことを伝えていけたらと思っています。

力至らないところもあるかと思いますが、皆様どうぞ御協力下さい。



むかはら たかお (普及課事務主任)

4月に海部郡の牟岐中学校より転任してまいりました。自宅は「うみがめの町」美波町(旧日和佐町)です。転任するとき、生徒たちに、「博物館で、どんなことしょん?」と聞かれました。3か月余りを経た今、ようやくその問いに少し答えられる気がしています。周りの方々を支えられながらの日々です。



「化石をさがそう」、「大阪・堺日帰り研修の旅」と会員の皆様と一緒に参加させていただいた友の会行事は、とても楽しく有意義なものでした。今年度、友の会事務局を務めさせていただきます。

びりよく 微力ではありますが、皆様のご支援のもと頑張っていこうと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

※昨年度の行事「こんにやくをつくろう」の感想を多数いただいておりますが、載せることができませんでした。ご協力に感謝申し上げますとともに、お詫び申し上げます。

第37号

No.37

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



July  
2008  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

2008年7月25日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp